

鹿児島県におけるリュウキュウミカンサビダニの発生と有効薬剤

藤川和博・水島真一¹⁾・都外川聡明²⁾・牟田辰朗
(鹿児島県果樹試験場・¹⁾鹿児島県農政部・²⁾鹿児島県農業試験場大島支場)

Kazuhiro FUJIKAWA, Shinichi MIZUSHIMA, Nobuaki TOTOGAWA and Tatsuro MUTA :
Occurrence and Chemical Susceptibility of *Phyllocoptruta citri* in Kagoshima Prefecture

リュウキュウミカンサビダニ (*Phyllocoptruta citri*) (以下リュウキュウと略記) は、上遠野¹⁾により沖縄県および奄美大島での発生が報告されているが、詳細な分布や生態、防除法に関する知見は少ない。そこで、鹿児島県におけるリュウキュウの発生と各種薬剤に対する感受性について検討したので、概要を報告する。

なお、リュウキュウの同定に関して種々御指導いただいた千葉県農業試験場上遠野富士夫博士に御礼申し上げます。

1. 材料および方法

1) リュウキュウの発生状況：1993～2001年にかけて県内各地のタンカン、ポンカン、‘不知火’においてサビダニ類の発生果を採取し、種を同定した。

2) 発生消長：リュウキュウの発生が確認された肝属郡根占町のタンカン園に調査樹を3樹設定し、浸漬法により30果から捕獲した虫数と種を2000年5月～2001年7月に調査した。1回の捕獲虫数が200頭を越えた場合は、無作為に選んだ200頭について種を同定した。

3) 薬剤検定：2000年11月20日に熊毛郡屋久町のタンカン園で採取した、リュウキュウの発生果を3果ずつ供試した。第2表に示した13薬剤について、田中²⁾の方法で感受性を検討した。

2. 結果および考察

1) リュウキュウの発生状況：21市町44園で調査した結果、31園地においてリュウキュウの発生が認められ(第1表)、新たに屋久島、種子島、薩摩半島、大隅半島で確認された。奄美大島、屋久島、種子島では、調査全園地でリュウキュウが認められ、これらの地域では広範囲に発生していると推察された。

2) 発生消長：根占町では、全調査期間を通じてミカンサビダニの発生が多く、リュウキュウを確認できたのは1月であった(第1図)。

3) 薬剤検定：ケルセン、酸化フェンブタズ、ピリダフェンチオン・フェニソプロモレート、ピリダベン、アミトラズの生虫率が低く、実用的な効果が高い薬剤と考えられた(第2表)。マンゼブでは生存虫率が高かった。

引用文献

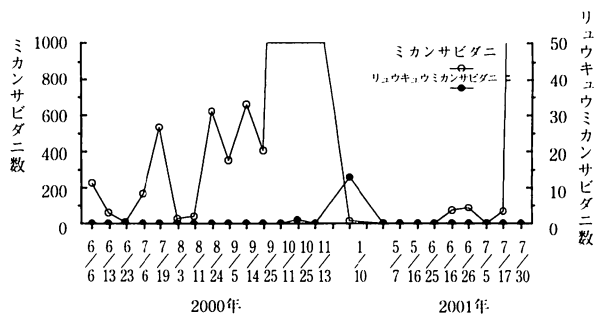
- 1) 上遠野富士夫：日本原色植物ダニ図鑑，pp217-226，全国農村教育協会，1993。
- 2) 田中 寛：今月の農業，36 (12)，72-75，1992。

第1表 リュウキュウミカンサビダニの発生状況

市町名	調査園数	リュウキュウミカンサビダニ 確認園数	調査樹種
与論町	1	1	タンカン
伊仙町	1	1	タンカン
瀬戸内町	3	3	タンカン
名瀬市	4	4	タンカン
龍郷町	2	2	タンカン
屋久町	6	6	タンカン
上屋久町	5	5	タンカン
中種子町	1	1	タンカン
西之表市	1	1	タンカン
開聞町	2	1	タンカン
嶺娃町	1	1	タンカン
坊津町	1	0	タンカン
大浦町	1	0	タンカン
加世田市	2	0	ポンカン
根占町	1	1	タンカン
内之浦町	2	1	タンカン
高山町	1	1	タンカン
垂水市	3	0	ポンカン
市来町	3	2	ポンカン
阿久根市	1	0	ポンカン
出水市	2	0	不知火

第2表 リュウキュウミカンサビダニに対する薬剤の感受性

供試薬剤	希釈倍数	生存虫率(%)
ケルセン乳剤	3,000倍	0.0
酸化フェンブタズ水和剤	6,000倍	0.0
ピリダフェンチオン・フェニソプロモレート剤	3,000倍	0.0
ピリダベン水和剤	9,000倍	0.0
アミトラズ乳剤	3,000倍	2.6
アセキノシル水和剤	3,000倍	4.0
ミルベメクチン水和剤	6,000倍	11.3
エトキサゾール水和剤	6,000倍	32.1
DDVP乳剤	3,000倍	32.8
ピフェナゼート水和剤	4,500倍	34.9
テブフェンピラド乳剤	6,000倍	49.6
キノキサリン系水和剤	3,000倍	77.3
マンゼブ水和剤	600倍	93.3
対照区 (蒸留水)		95.3



第1図 リュウキュウミカンサビダニとミカンサビダニの発生状況
注) 30果実当たりの成幼虫数 (根占町)